

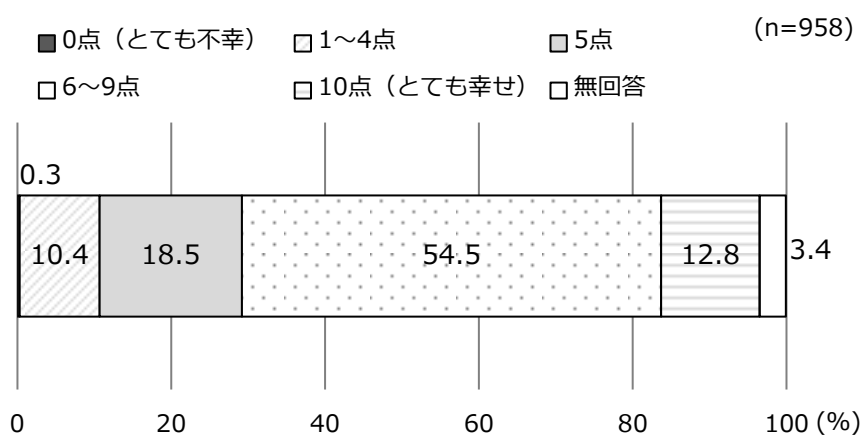
3. 暮らしに関する意識

3.1 幸福度

本章では幸福度や社会関係、孤独感、市の住みやすさなど、住民の生活や地域に対する意識について確認する。

幸福度について、「あなたは現在、どの程度幸せですか」とたずね、0点を「とても不幸」、10点を「とても幸せ」とした10段階から選択してもらった(図表3-1)。0点は0.3%、1～4点は10.4%、真ん中の得点に該当する5点は18.5%、6～9点は54.5%、10点は12.8%と、「幸せ」と評価する住民が多かった。

図表 3-1 幸福度(全体)



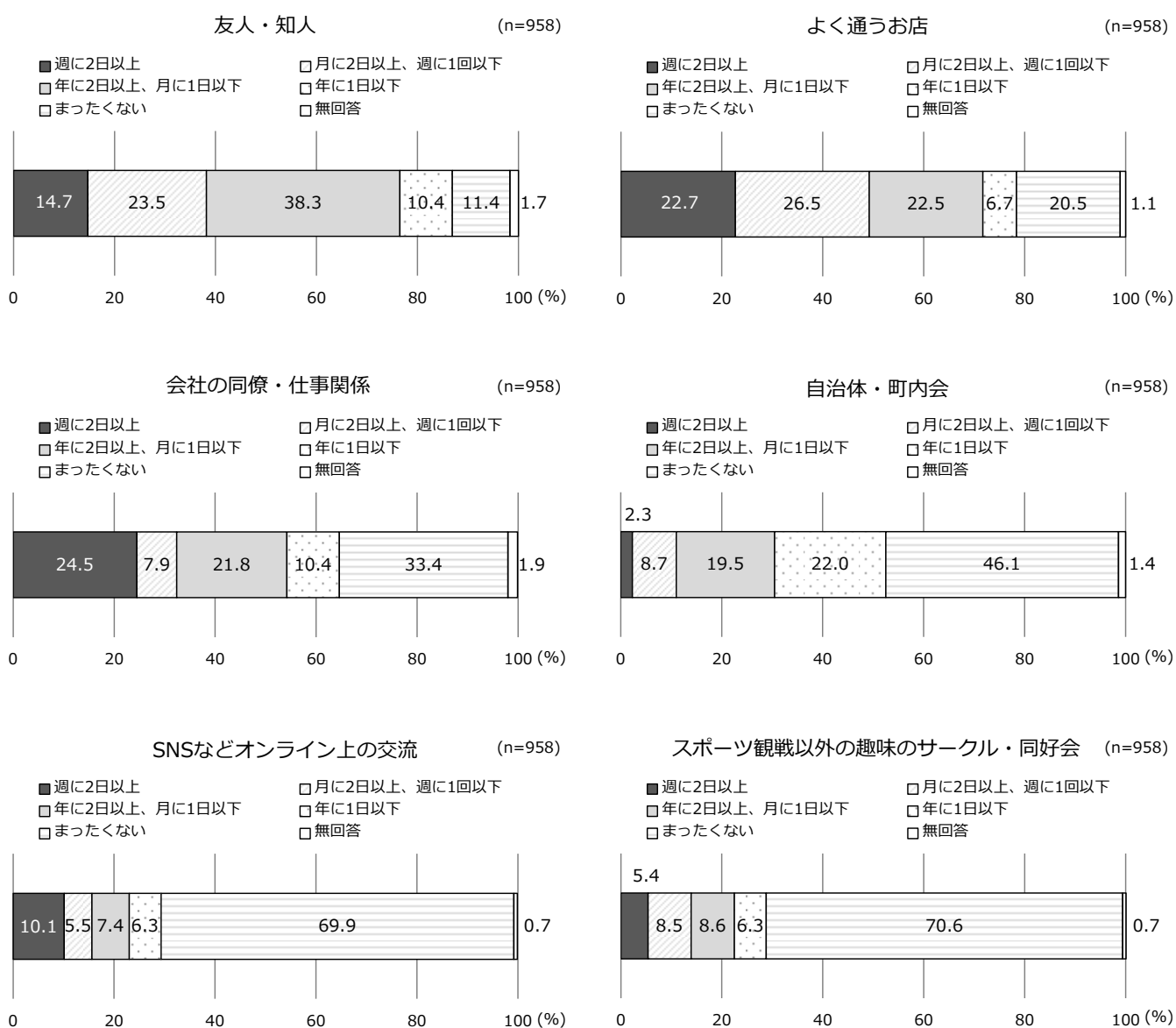
3.2 地域における付き合い（社会関係）

家族・親戚以外で、地域の人びととの付き合いの頻度をたずねた。「週に2日以上」から「年に1日以下」までを合計した割合をみると、「友人・知人」が86.9%と最も高く、次いで「よく通うお店」が78.4%であった。また、「会社の同僚・仕事関係」は64.6%、「自治体・町内会」は52.5%であった。

趣味や私的な交流を通じた付き合いをみると、「SNSなどオンライン上の交流」29.3%、「スポーツ観戦以外の趣味のサークル・同好会」28.8%、「勉強会・セミナー・習い事」24.9%、「スポーツ観戦グループ」20.7%であり、いずれも2〜3割程度であった。

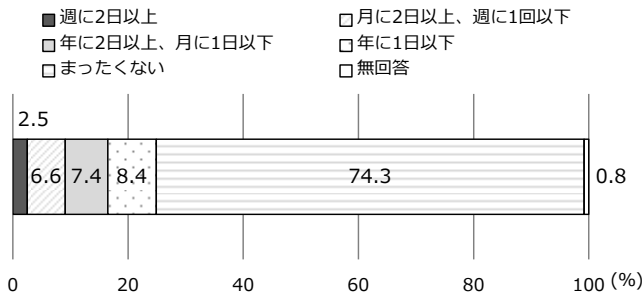
地域の活動や行政の場を通じた付き合いは、「地域のイベントや祭りの実行委員会」23.7%、「地域のボランティア団体」17.5%、「PTA・学校関連・その他保護者の集まり」16.1%、「行政が主催する勉強会・イベントなど」15.3%であった。「NPO・NGO 団体」や「老人会・シニアクラブ」の人びとと付き合いがある割合は1割未満で、「まったくない」がそれぞれ95.3%、93.9%を占めた。

図表 3-2 地域における付き合い(全体)



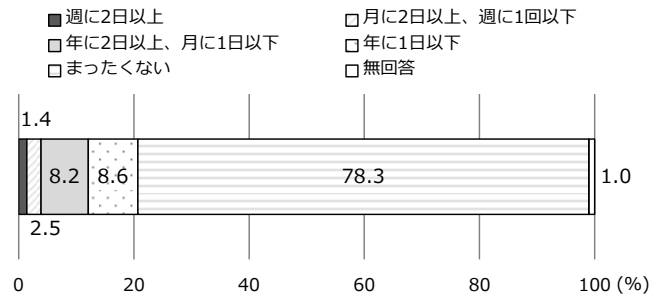
勉強会・セミナー・習い事

(n=958)



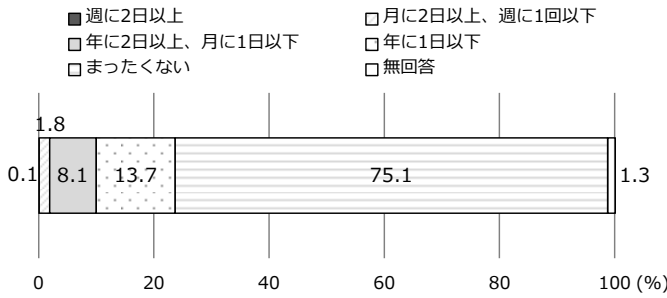
スポーツ観戦グループ

(n=958)



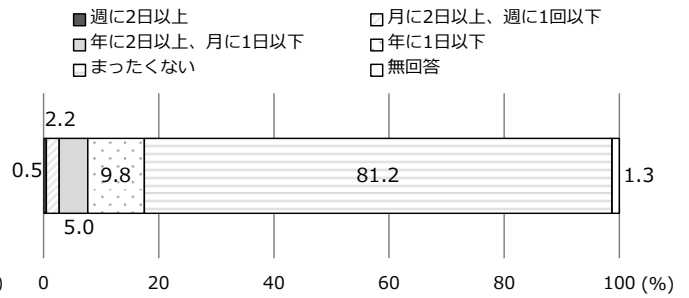
地域のイベントや祭りの実行委員会

(n=958)



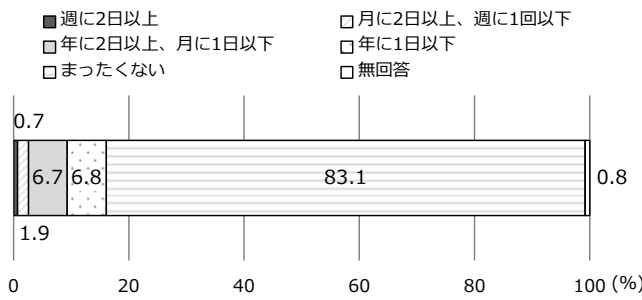
地域のボランティア団体

(n=958)



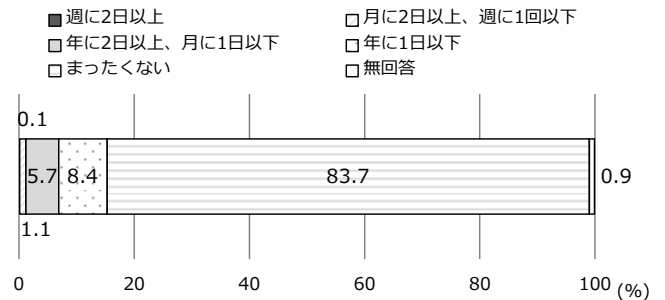
PTA・学校関連・その他保護者の集まり

(n=958)



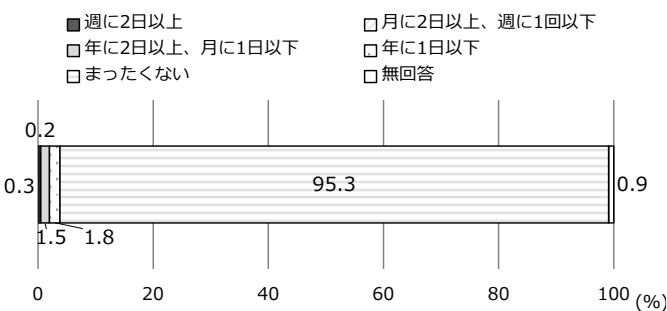
行政が主催する勉強会・イベントなど

(n=958)



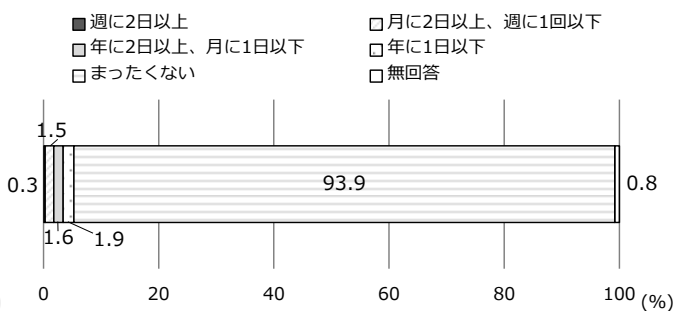
NPO・NGO団体

(n=958)



老人会・シニアクラブ

(n=958)



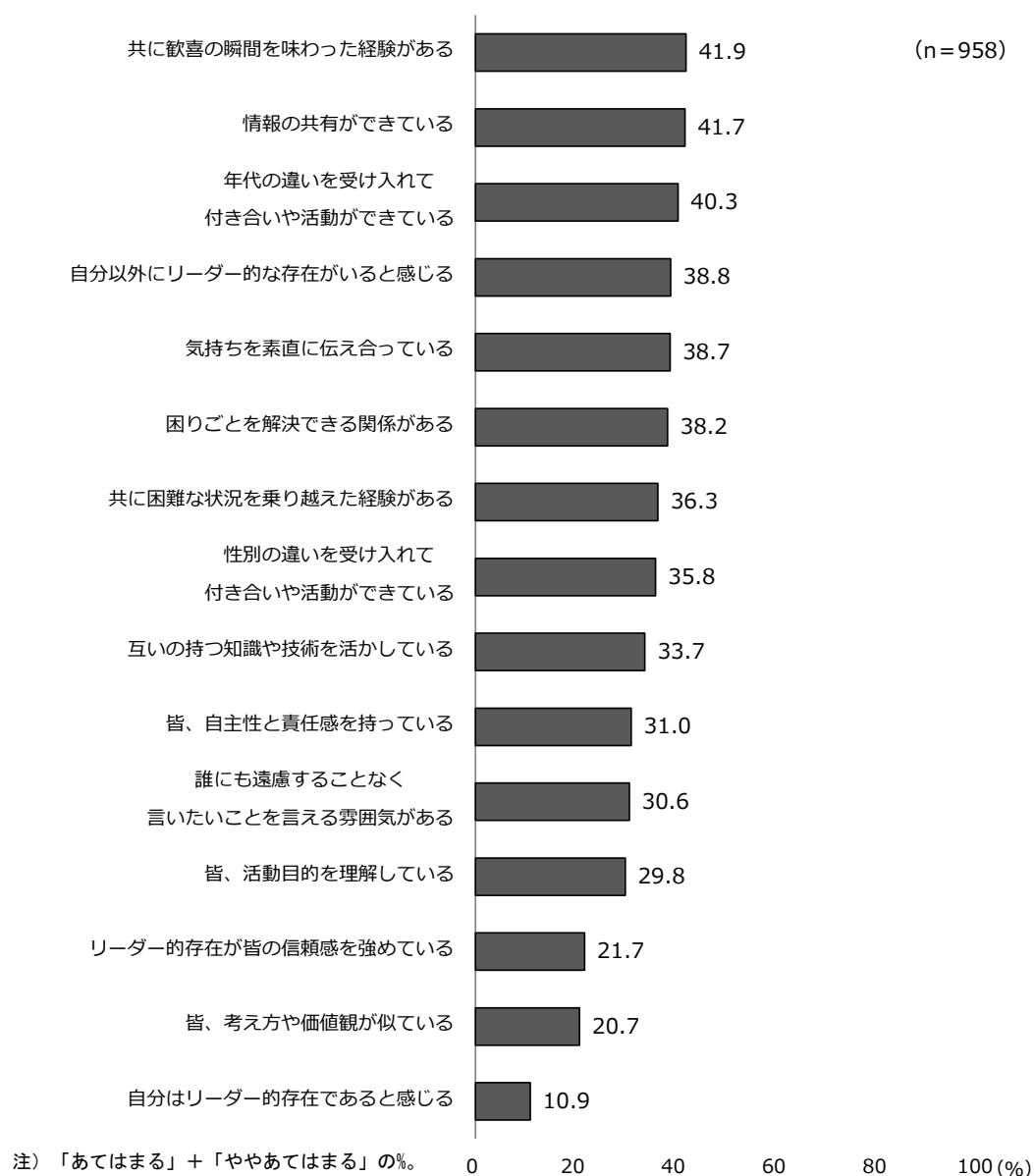
3.3 社会関係の正の側面

人びととの付き合い(社会関係)に関しては、信頼や協力などの正の側面と、閉鎖性や排他性などの負の側面がある。調査票では、普段から関わりが深い地域の人びと(家族・親戚を除く)を思い浮かべて、各質問にどの程度あてはまるか回答してもらった。

「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計値をみると、「共に歓喜の瞬間を味わった経験がある」が 41.9%と最も高く、次いで「情報の共有ができていいる」41.7%、「年代の違いを受け入れて付き合いや活動ができていいる」40.3%であった(図表 3-3)。また、「自分以外にリーダー的な存在がいると感じる」38.8%、「気持ちを素直に伝え合っている」38.7%、「困りごとを解決できる関係がある」38.2%、「共に困難な状況を乗り越えた経験がある」36.3%、「性別の違いを受け入れて付き合いや活動ができていいる」35.8%などが続いた。

一方、「リーダー的存在が皆の信頼感を強めている」は 21.7%、「皆、考え方や価値観が似ていいる」は 20.7%と、2 割程度であった。また、「自分はリーダー的存在であると感じる」は 10.9%と最も低かった。

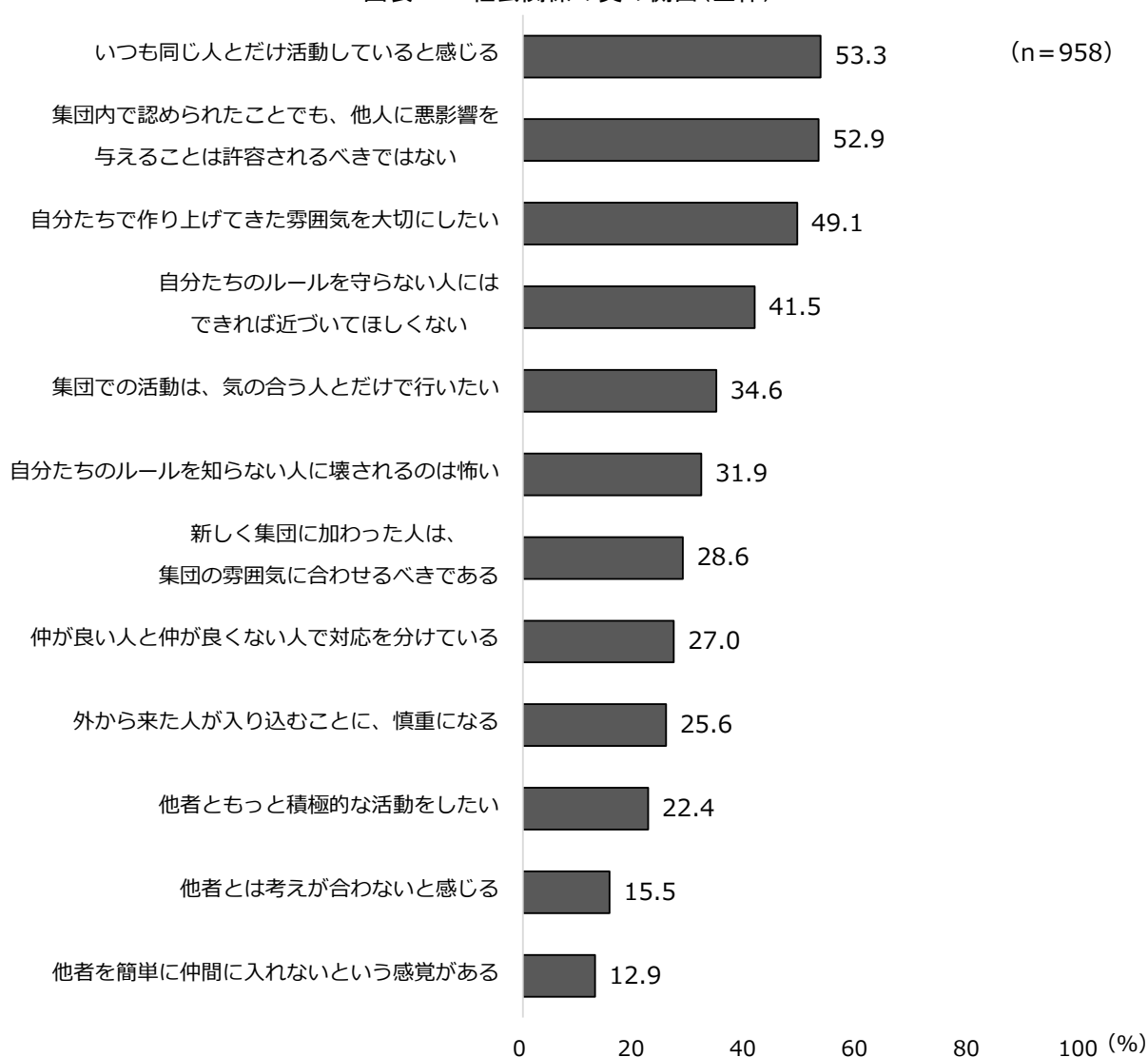
図表 3-3 社会関係の正の側面(全体)



3.4 社会関係の負の側面

続いて閉鎖性や排他性などの負の側面に関する項目を確認する。「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計値をみると、「いつも同じ人とだけ活動していると感じる」が 53.3%と最も高く、次いで「集団内で認められたことでも、他人に悪影響を与えることは許容されるべきではない」52.9%、「自分たちで作り上げてきた雰囲気大切にしたい」49.1%であった(図表 3-4)。「他者とは考えが合わないと感じる」は 15.5%、「他者を簡単に仲間に入れないという感覚がある」は 12.9%とそれぞれ 1 割台となり、ほかの項目に比べて低かった。

図表 3-4 社会関係の負の側面(全体)

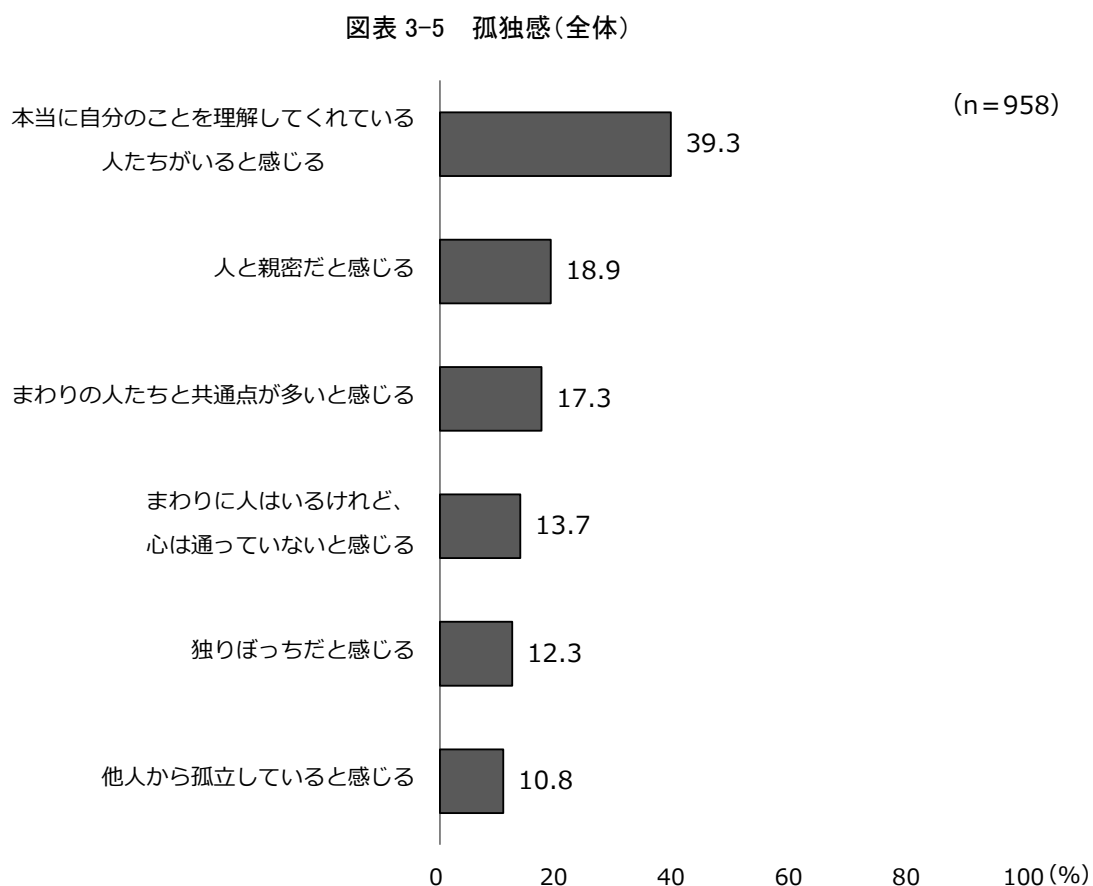


注)「あてはまる」+「ややあてはまる」の%。

3.5 孤独感

地域の人びととの付き合いにおける孤独感に関する項目を整理した。全体では「本当に自分のことを理解してくれている人たちがいると感じる」39.3%、「人と親密だと感じる」18.9%、「まわりの人たちと共通点が多いと感じる」17.3%で、逆転項目にあたる3項目の数値が比較的高かった(図表 3-5)。

一方、「まわりに人はいるけれど、心は通っていないと感じる」は 13.7%、「独りぼっちだと感じる」は 12.3%、「他人から孤立していると感じる」は 10.8%であった。



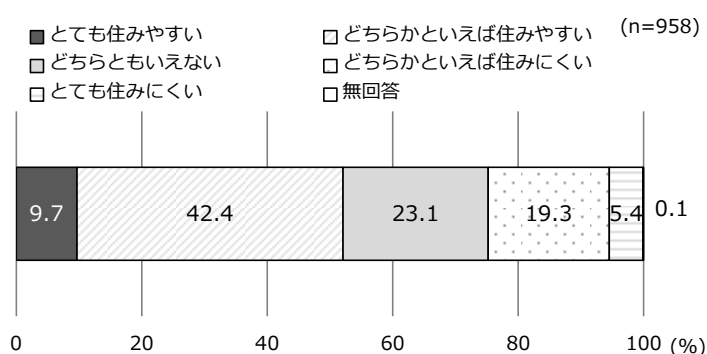
注)「あてはまる」+「ややあてはまる」の%。

3.6 市の住みやすさ・今後の居住意向

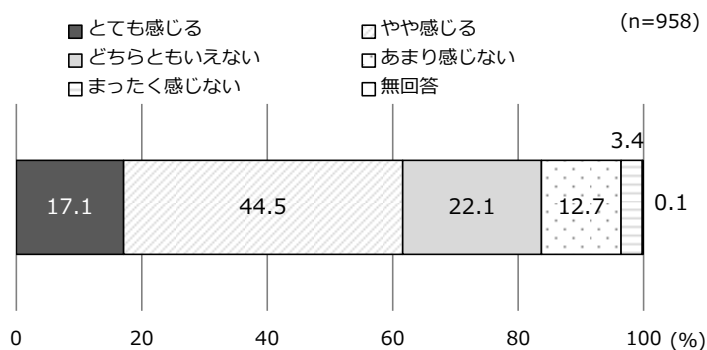
青森市が実施する「市民意識調査」を参照し、住みやすさや今後の居住意向をたずねた。住みやすさを5段階でたずねた結果をみると、「とても住みやすい」が9.7%、「どちらかといえば住みやすい」が42.4%で、過半数が青森市を住みやすいと評価していた(図表3-6-1)。

青森市に誇りや愛着を感じるかを5段階でたずねたところ、「とても感じる」が17.1%、「やや感じる」が44.5%で、6割以上が肯定的な回答をした(図表3-6-2)。今後も青森市に住みたいかについては、「ずっと住み続けたい」が23.4%、「できるなら住み続けたい」が30.7%、「市内の別の地域に住みたい」が3.2%で、あわせて57.3%が今後も青森市内に居住したい意向を示した(図表3-6-3)。「できれば市外に転居したい」と「すぐにでも市外に転居したい」をあわせて15.0%であった。

図表 3-6-1 住みやすさ(全体)



図表 3-6-2 市への誇りや愛着(全体)



図表 3-6-3 今後の居住意向(全体)

